

News Release



各位

平成 30 年 6 月 26 日

株式会社トーヨー建設

株式会社トーヨーエネエルギーファーム

株式会社トーヨーエネエルギーソリューション

ハノイ市と MOU 締結のお知らせ ～ベトナムで一般廃棄物処理施設～

トーヨーグループは、2018 年 6 月 17 日ハノイ市で開催された“Hanoi 2018 INVESTMENT AND DEVELOPMENT COOPERATION CONFERENCE”にて、「ベトナム国ハノイ市における分別およびメタン発酵発電による一般廃棄物資源循環型処理プロジェクト(以下、本プロジェクト)」の MOU をハノイ市と締結いたしました。

本プロジェクトは日越外交樹立 45 周年にあたり、さらなる日越間の投資・貿易の協力を強め、廃棄物の再利用率の向上、埋め立ての最小化、温暖化ガス排出の抑制、有機肥料の生成を成し得る資源循環型廃棄物処理プラントへの投資および研究促進と技術移転を図ることを目的としています。



調印式の様子 (左) グループ代表 岡田吉充 (右) ハノイ市長

トーヨーグループはベトナム政府の掲げる廃棄物処理に関する政策に則り、受入れ容量世界最大規模となる日量 1500～2000 トンの廃棄物処理およびメタン発酵ガス化による発電プロジェクト(投資額 1 億 5 千万ドル)に協力し、当該先進技術を用いた本プロジェクトの調査、投資プロセス、許認可取得、速やかな建設をおこないます。また、ハノイ市および関連当局は、同提案を認め必要な情報やアドバイスをおこないます。

News Release

ベトナムではこれまで一般廃棄物のメタン発酵発電の実績がないため、本プロジェクトの成功によりベトナム政府の一般廃棄物処理政策を後押しすることになり、環境負荷の少ない資源循環型処理だけでなく、再生可能エネルギーによる低炭素社会と持続性社会発展の実現に寄与します。

本プロジェクトでは、発電のほか、リサイクル可能な資源はリサイクル品として分別し、一部は、固形燃料(RDF)化し、資源の循環をおこない、最終処分量を大幅に削減します。メタン発酵後に生成される消化液は良質な有機肥料であり、農業利用を広くおこなうためにベトナム国家農業大学と共同研究をおこなうことで提携をしました。すでに有機農法での試験栽培をおこなう農地も選定されており、ベトナムの農業政策の課題解決にも寄与していきます。

トーヨーグループは、建設事業を基盤に再生可能エネルギー事業にも参入し、積極的に事業開発を進めています。国家戦略特区である兵庫県養父市で食品残渣や家畜ふん尿を活用したメタン発酵発電施設、石川県輪島市で間伐材等を活用した木質バイオマス発電施設を、それぞれ建設中です。また、国内 20 箇所で合計 40MW の太陽光発電施設が稼働しており、これらは全てグループで連携し、設計から調達・施工、保守やメンテナンスをおこなっております。

グループとして“多様な事業とそのシナジーで新しい価値を創造し、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する”を合言葉に、50 年後、100 年後を視野に入れた社会貢献と、企業価値の向上を目指しています。今後も積極的に再生可能エネルギーの普及拡大と地域社会の活性化に貢献してまいります。

■本件に関するお問い合わせ

株式会社トーヨー建設 電話:03-5694-1321

以上